

1 学校教育目標

人権尊重の精神に基づき、地域社会や国際社会に対応できる知・徳・体のバランスがとれた人間性豊かな児童の育成を目指し、次の目標を設定する。

- 豊かな子 : 自分に自信をもち、友だちを大切にする子
- 考える子 : めあてをもち、意欲的に学習する子
- たくましい子 : あきらめない強い心とやり遂げる体力のある子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもが学びたくなる、明るく楽しい学校 ○ 保護者や地域の方が通わせたい学校 ○ 教職員が協働し、充実感と誇りをもてる学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分に自信をもち、友だちを大切にする子 ○ めあてをもち、意欲的に学習する子 ○ あきらめない強い心とやり遂げる体力のある子
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○ やる気を引き出し、考える授業を展開するために学び続ける教師 ○ 児童理解に努め、一人一人を大切にしている教師 ○ 謙虚で誠実であり、協働意識と危機管理意識の高い教師 ○ 保護者や地域の思いや願いを受け止め、学校教育に生かす努力を惜しまない教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○全校児童は312名。新1年56名が入学。12学級。特別支援教室に34名の児童が入室している。教職経験10年未満の教職員63.2%を占めている。常に共通理解のもと同歩調で統一した指導に努めている。また、学力向上のために足立スタンダード（問題解決型学習）を基にした授業力の向上を目指している。少しずつではあるが定着してきている。児童は、明るく元気で素直である。学習面では、授業規律の徹底が図られ、前向きに学習に取り組む児童が多い。生活面では、6年生を中心とした縦割り班活動や全校遊び、クラブ・委員会活動で、協調性等が育ち、学年を超えて仲よく交流できる児童が多い。保護者、地域の方は、学校の教育活動に対し協力的である。本校出身者も多く、学校や地域に対する愛着が深い。

【前年度の成果と課題】

重点的な取組事項ー1 学力向上アクションプラン

・区学力調査通過率80%以上を目指してきた結果4月通過率は90.1%で目標を達成することができた。国語・算数の基礎的基本的な学力の定着80%以上を目指した結果、国語81.2%、算数81.6%を達成した。80%に達成していない児童を中心に児童一人一人の基礎的基本的な学力定着状況を把握して、90%以上達成に向けての努力を続ける。「子どもの思考の流れを大切に授業づくり」を心がけ、授業を中心として学力の向上に努める。

重点的な取組事項－2 規律ある行動・健康な体づくり

- ・体力テストの結果から、特に「投力」「瞬発力」「走力」が課題である。来年度は、体育朝会・体育的活動の内容を見直し、具体的な手立てをもって計画的に指導にあたる。健康な体づくりのために、保健・食育指導も大切である。養護教諭・栄養士と連携した指導をさらに充実していく。
- ・規律ある行動を目指した取組は成果をあげている。特に、年間を通して教員や児童による挨拶活動を実施してきたことにより、明るく笑顔で挨拶をする児童が増えてきた。保護者会やHP・学校だより等を活用して、保護者・地域の方への情報発信の方法を工夫し、連携を強化していく。

重点的な取組事項－3 豊かな心の育成

- ・「学校は楽しい」自己評価94.0%、「自分にはよいところがある」自己評価83.2%で設定目標を達成した。今後も、児童の自己肯定感・自尊感情を高めるために、自分の良さや友達の良さに気づく教育活動を重視していく。また、教員の人権感覚を磨き、児童に寄り添いながら豊かな心を育てる指導を進めていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	規律ある行動・健康な体づくり	○	○	○	○	○
3	豊かな心をはぐくむ	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題		達成度 ◎○△●
基礎的基本的な学力の定着 学習習慣の定着	○区学力調査目標 通過率 80%以上 ○年度末到達目標 通過率 70%以上	・区学力調査目標 通過率 90.6% ・年度末到達目標(2月実施) 通過率 76.3%	・4月実施結果は90.6%で目標を達成した。児童の実態に応じた目標を設定し、指導改善と個に応じた指導を充実・推進し、学力向上に努める。 ・2月実施結果は76.3%で目標を達成した。授業改善と個に応じた指導を充実し、学力向上に努める。		○

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続・改善	朝学習 (保木間 タイム)	全児童 国語 算数	毎週火 (漢字) 毎週水 (読解) 毎週金 (算数) 20分	【指導者体制】 担任+専科 【取組みのねらい・目的】 学習内容を定着させる。 【使用教材】 漢字ドリル、読解ドリル、 AIドリル等	定着度確認 テスト (2月実施)	2月に実施する 定着度確認テストで目標値を通過する児童 70%以上	・2月実施予定 通過率 76.3%	・目標を達成することができた。つまりきに応じた指導を継続し、基礎基本の定着に努めていく。	◎
2 継続・改善	放課後 補充教室 (全教職員)	全学年 算数 正答率 70%未満	毎週 木曜日 放課後 30分	【指導者体制】 担任+専科 【取組みのねらいと方法】 ・前学年までのつまりきに応じた個別指導や少人数指導を実施する。 【使用教材】 プリント教材等	定着度確認 テスト (2月までに 実施)	2月までに実施する定着度確認テストで目標値を通過する児童 85%以上	・定着度確認テスト 通過率 94.6%	・目標を達成することができた。つまりきに応じた個別指導を継続し、基礎基本の定着に努めていく。	◎
3 継続	サマー スクール	全学年 算数 各学年 約10名 程度	全学年 算数 各学年 約10名 程度	【指導者体制】 全教員 【取組みのねらい・目的】 前学年までのつまりきや現学年の授業で理解が十分でない内容を指導する。 【使用教材】 AIドリル、プリント教材等	定着度確認 テスト (12月までに 実施)	12月までに実施する定着度確認テストで目標値を通過する対象児童 85%以上	・定着度確認テスト 通過率 94.6%	・目標を達成することができた。つまりきに応じた個別指導を継続し、基礎基本の定着に努めていく。	◎
4 改善	授業力 向上	教員	年間	【取組みのねらい・目的】 管理職、教科指導専門員による授業観察・指導をする。 校内研究授業 年6回	授業 アンケート 授業研究実施	授業アンケート 肯定的評価 80%以上 研究授業 6回	・肯定的評価 85.3% ・授業研究 年6回	・目標を達成することができた。今後も「わかる楽しい授業」の創造に努めていく。	◎
5 継続・改善	ICTの活用	全学年 全教科	年間	【指導体制】 全教員 【取組みのねらい・目的】 授業や学力向上の取組にICTを効果的に活用する。 教員一人一人が目標を設定して活用する。	活用 アンケート (教員)	目標達成 80%以上	・アンケート結果 87.5%	・目標を達成することができた。授業場面において児童が活用する機会をさらに増やしていく。	◎

6 継続・改善	家庭学習の定着	全児童	毎日	【取り組みのねらい・目的】 家庭学習の定着を目指す。 各学年に応じた目標時間の設定・目標時間に応じた課題を提示する。	宿題提出 状況調査	宿題提出率 90%以上	・宿題提出率 89.2%	・目標を達成することができなかった。がんばりを評価することを通して、提出率90%以上を目指す。	△
------------	---------	-----	----	--	--------------	----------------	-----------------	---	---

重点的な取組事項－2	規律ある行動・健康な体づくり
-------------------	----------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
規律ある行動・健康な体づくり	○生活ふりかえり 自己評価 85%以上 ○体力・運動能力調査結果が前年度の結果を上回る。	・生活振り返り(年2回)実施。 自己評価90.4%で目標達成。 ・体力・運動能力調査結果合計得点で、 男子:1年・6年、 女子:1年・4年・6年 が昨年度を上回った。	・規律ある行動については目標を達成した。 ・体力・運動能力調査の結果は非常に厳しい状況である。強化領域を決め、具体策をもって体力向上に努める。	○

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力や運動能力の向上	○外遊びをする 運動することが好き 自己評価 90%以上 ○体力・運動能力調査結果が前年度を上回る。	○外遊びの奨励 ○エンジョイタイムの実施 ○体育指導技術向上研修 ○養護教諭・栄養士による健康・食育指導	・外遊びをする 自己評価 95.8% ・運動することが好き 自己評価 94.4% ・体力・運動能力調査結果【合計得点】(R4との比較) 男子:1年・6年が上回った。 女子:1年・4年・6年が上回った。 課題:持久力・瞬発力・柔軟。	・「外遊びをする」「運動することが好き」は目標を達成した。体力・運動能力調査の結果は、学校全体として非常に厳しい結果であった。来年度は、特に持久力・瞬発力・柔軟性の向上のための具体策を立て、体育授業等指導改善に努める。	△

規律ある行動	○生活ふりかえり (朝の準備、そうじ、挨拶・返事、時間を守る) 自己評価 85%以上	○学級・学年・全校での 指導の徹底 ○生活習慣調査(年3回) ○生活振り返りカード(年3回)	生活振り返りカード 自己評価90.4%で目標達成。	・目標を達成した。全校で統一した指導を進めている。今後も教職員の共通行動を大切にして、児童の生活習慣の定着や規範意識や自制心を育てていく。	◎
--------	--	---	------------------------------	---	---

重点的な取組事項－3	豊かな心をはぐくむ
-------------------	-----------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感・思いやりの心を育てる	自己肯定感に関する調査 自己評価85%以上	自己肯定感に関する調査 自己評価90.5%で目標達成。 学校が楽しい : 93.3%。 自分にはよいところがある : 87.6%	・目標を達成した。今後も子ども一人一人のよさやがんばりを認め合う学級・学年・学校の雰囲気づくりを大切にしてい	◎

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の向上	○学校が楽しい 自己評価 90%以上 ○よいところがある 自己評価 80%以上	○ふれあい月間の取組 (年3回) ○道徳授業の充実 ○全校朝会で活躍の賞賛	・学校が楽しい 自己評価93.3%で目標達成。 ・自分にはよいところがある 自己評価87.6%で目標達成。	・目標を達成した。今後も道徳教育の充実やふれあい月間の取組などの充実と日常的な指導を大切に自己肯定感を高めていく。	◎
思いやりの心を育む	○異学年活動や 児童会活動は楽しい 自己評価 90%以上	○縦割り班活動の充実 ・縦割り班遊び ・縦割り班清掃 ・縦割り班あいさつ運動 ・全校学習 ○委員会・クラブ活動の充実	・異学年活動や児童会活動は 楽しい 自己評価 92.6% 異学年活動 92.3% 委員会・クラブ活動 93.3% ・全校学習(年5回)実施	・目標を達成した。常に実施可能な活動を考え、委員会活動では日常活動を大切に指導してきた。児童の考えも取り入れ、活動を充実させていく。	◎
読書に親しみ、 豊かな心を育む	○読書は楽しい 自己評価80%以上	○読み聞かせの実施 ○読書月間実施(年2回) ○図書館支援員との連携	・読書は楽しい 自己評価 90.5%	・目標を達成した。図書館支援員や図書ボランティアによる読み聞かせや読書月間の取組を改善し、読書の質を高めていく。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上アクションプラン

・区学力調査通過率80%以上を目指してきた結果4月通過率は90.6%で目標を達成することができた。目標を通過できていない児童に対して、サマースクールや放課後補充教室等を実施し、個に応じた指導を積み重ね、再調査(9月)の結果、通過率は、94.9%を達成した。基礎的基本的な学力の定着させるために児童一人一人の基礎的基本的な学力定着状況を把握しながら、「子どもの思考の流れを大切に授業づくり」に心がけ、授業を中心として学力の向上に努める。

重点的な取組事項－2 規律ある行動・健康な体づくり

・体力テストの結果から、特に「持久力」「瞬発力」「柔軟性」に課題である。来年度は、体育朝会・体育的活動の内容を見直し、具体的な手立てをもって計画的に指導にあたる。健康な体づくりのために、保健・食育指導も大切である。養護教諭・栄養士と連携した指導をさらに充実していく。
・規律ある行動を目指した取組は成果をあげている。特に、年間を通して教員や児童による挨拶活動を実施してきたことにより、明るく笑顔で挨拶をする児童が増えてきた。保護者会の場やHP・学校だより等を活用して、保護者・地域の方への情報発信の方法を工夫し、連携を強化していく。

重点的な取組事項－3 豊かな心の育成

・「学校は楽しい」自己評価93.3%、「自分にはよいところがある」自己評価87.6%で設定目標を達成した。今後も、児童の自己肯定感・自尊感情を高めるために、自分のよさや友達のよさに気づく教育活動を重視していく。また、教員の人権感覚を磨き、児童に寄り添いながら豊かな心を育てる指導を進めていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

○学校、家庭、地域にはそれぞれの役目があります。学校は、子どもたちに学力や体力をはじめ、人格形成の基礎を身につけさせていく役目があります。また、子どもたちに基本的な生活習慣が身につくようにして、学習効果を高めていくことも役目です。この基本的な学習・生活の習慣を身につけることは学校だけでも家庭だけでもできません。互いがフィフティフィフティの同等な関係で、それぞれの役割を果たすことが重要です。基本的な生活・学習の習慣の土台は、家庭であり、家庭の協力が必要不可欠です。「躰」「健康管理」「家庭学習習慣」「社会規範(きまり)を守る」などは家庭の役目です。もう一つ家庭・地域・学校に共通の役割は、子どもたちに「忍耐強さ」「根気強さ」「自制心(心の強さ)」「意欲」「誠実さ」「好奇心(興味・やる気)」「社会性」「協調性(思いやり・協力)」「人とかかわる力」などの力を育てていくことです。家庭で基盤をつくり、学校で知識や知恵を身につけ、地域で実践していくような連携がとれることを願っています。

○学校は、子どもあつての学校、地域あつての学校だと考えます。ですから学校は、子どもや保護者、地域の声に耳を傾け、子ども、保護者、地域の願いや思いを受け止めて教育活動を推進し、「笑顔輝く保木間小学校」を実現していきたいと考えます。そのためにも、学校は、子どもたちの学校での学習面・生活面の状況を保護者の皆様や地域の皆様に積極的に発信することで共有し、協働して子どもたちに働きかける体制を確立していきたいと思えます。

(3) その他(学校教育活動全般について)

○来年度の新入児童数は46名2学級が見込まれている。全校児童は307名、学級数も12学級となる予定である。特別支援教育については、特別支援教室を中心に学級との情報交換を密にし、個に応じた指導をさらに充実させ、児童一人一人のよさを引き出す指導を推進していく。また道徳教育や特別活動の充実を図り、豊かな心の育成にさらに力を入れていく。何よりも日常の授業を大切にして、一時間の授業を通して、「人とかかわる力」「自分を知る力」「解決する力」等を育成していきたい。常にチャレンジ精神をもって教育活動を充実いくとともに、さらに家庭・地域との連携を強め、協働体制を強化していくことが本校の使命である。